

作物の種類		シバ属		459		1次必須項目									
項目番号	項目名	調査数	方法	分級・単位										調査方法等	
				0	1	2	3	4	5	6	7	8	9		
1	ほふく茎の太さ	5測定/区	測定	mm (小数第2位を四捨五入)										ほふく茎の先端から第4～5節間の葉鞘を剥いた最大直径。ノギス等による測定	
2	出穂茎の太さ	5測定/区	測定	mm (小数第2位を四捨五入)										出穂茎における穂の直下の直径、ノギス等による測定	
3	出穂茎長	5測定/区	測定	cm (小数第2位を四捨五入)										出穂期における地際より穂の基部までの長さ	
4	節間長	5測定/区	測定	mm (小数第1位を四捨五入)										ほふく茎の先端から第4～5節間の長さ	
5	葉身長	5測定/区	測定		極短	より短	短	やや短	中	やや長	長	より長	極長	初夏における成葉の葉身長 (0.1cm)	
6	葉身幅	5測定/区	測定		極細	より細	細	やや細	中	やや広	広	より広	極広	初夏における成葉の葉身幅 (0.1mm)	
7	葉色	1観察/区	観察		極淡	より淡	淡	やや淡	中	やや濃	濃	より濃	極濃	初夏における葉身の緑度	
8	穂の色	1観察/区	観察		極淡	より淡	淡	やや淡	中	やや濃	濃	より濃	極濃	初夏における穂の色	
9	出穂始期	1観察/区	観察	年月日										1㎡当たり3本程度が出穂した日	
10	ほふく茎の広がり	3測定又は1観察/区	観察・測定		極小	より小	小	やや小	中	やや大	大	より大	極大	定植後の新しいほふく茎の伸長程度により評価	

作物の種類		シバ属		459		1次選択項目									
項目番号	項目名	調査数	方法	分 級 ・ 単 位										調 査 方 法 等	
				0	1	2	3	4	5	6	7	8	9		
1	ほふく茎密度	1観察/区	観察		極疎	より疎	疎	やや疎	中	やや密	密	より密	極密	単位面積当たりの地上ほふく茎の長さを評点する	
2	小穂数	5測定/区	測定		極少	より少	少	やや少	中	やや多	多	より多	極多	1番草出穂時の1穂に着生する少穂の数	
3	小穂幅	10測定/区	測定		極細	より細	細	やや細	中	やや太	太	より太	極太	1番草出穂時の小穂の幅を測定(0.1mm)	
4	出穂性	1観察/区	観察		極少	より少	少	やや少	中	やや多	多	より多	極多	春及び秋の出穂盛期における単位面積当たりの穂数を評点する	
5	脱穎性	1観察/区	観察		極易	より易	易	やや易	中	やや難	難	より難	極難	1番草の穂について登熟期に脱穎の難易を評点する(各10穂)	
6	初期生育	1観察/区	観察		極不良	より不良	不良	やや不良	中	やや良	良	より良	極良	播種または植付け後の生育の良否を評点する	
7	1000粒重	1測定/区	測定	g(小数第3位を四捨五入)										100粒以上/区の種子の重さを秤量する(mg)	

作物の種類		シバ属		459		2次必須項目								
項目番号	項目名	調査数	方法	分 級 ・ 単 位									調 査 方 法 等	
				0	1	2	3	4	5	6	7	8		9
1	さび病抵抗性	1観察/区	観察		極弱	より弱	弱	やや弱	中	やや強	強	より強	極強	人工接種または汚染圃場における罹病程度から判定
2	ラージブラウンパッチ抵抗性	1観察/区	観察		極弱	より弱	弱	やや弱	中	やや強	強	より強	極強	人工接種または汚染圃場における罹病程度から判定
3	春の草勢	1観察/区	観察		極不良	より不良	不良	やや不良	中	やや良	良	より良	極良	早春の生育草量の多少
4	春の緑化の早晩	1観察/区	観察	年月日									越冬後の萌芽で1区の半分が緑色を呈する月日	
5	紅葉の早晩	1観察/区	観察	年月日									秋に1区の半分の葉身が紅葉を呈する月日	
6	越冬性	1観察/区	観察		極不良	より不良	不良	やや不良	中	やや良	良	より良	極良	越冬後早春の再生力、草勢により総合的に評価

作物の種類		シバ属		459		2次選択項目								
項目番号	項目名	調査数	方法	分 級 ・ 単 位									調 査 方 法 等	
				0	1	2	3	4	5	6	7	8		9
1	カーブラリア葉枯病抵抗性	1観察/区	観察		極弱	より弱	弱	やや弱	中	やや強	強	より強	極強	Curvularia spp. による罹病程度から判定する
2	雪腐小粒菌核病抵抗性	1観察/区	観察		極弱	より弱	弱	やや弱	中	やや強	強	より強	極強	Typhula incarnata またはTyphula ishikariensis による罹病程度から判定する
3	紅色雪腐病抵抗性	1観察/区	観察		極弱	より弱	弱	やや弱	中	やや強	強	より強	極強	Fusarium nivale による罹病程度から判定する
4	シバオサゾウムシ抵抗性	1観察/区	観察		極弱	より弱	弱	やや弱	中	やや強	強	より強	極強	シバオサゾウムシによる虫害程度から判定する
5	秋の草勢	1観察/区	観察		極不良	より不良	不良	やや不良	中	やや良	良	より良	極良	初秋の草量の多少を評点する
6	耐陰性	1観察/区	観察		極弱	より弱	弱	やや弱	中	やや強	強	より強	極強	寡日照条件における生長量の多少を刈取り時に評点する
7	耐旱性	1観察/区	観察		極弱	より弱	弱	やや弱	中	やや強	強	より強	極強	乾燥条件における生長量の多少を刈取り時に評点する
8	耐塩性	1観察/区	観察		極弱	より弱	弱	やや弱	中	やや強	強	より強	極強	含塩土壌における生長量の多少を刈取り時に評点する

作物の種類		シバ属		459	3次必須項目									
項目番号	項目名	調査数	方法	分級・単位										調査方法等
				0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	
1	草高	3測定/区	測定		極低	より低	低	やや低	中	やや高	高	より高	極高	生育期において芝刈2～4週後の芝生状に茎葉が密生した部分の草高を草高計等で測定（0.1cm）
2	被覆率	1観察/区	観察		極低	より低	低	やや低	中	やや高	高	より高	極高	生育期において芝刈2～4週後の芝生状に茎葉が密生した部分の単位面積当たり緑葉で覆われた面積の比率を観察（%）

作物の種類		シバ属		459		3次選択項目								
項目番号	項目名	調査数	方法	分 級 ・ 単 位									調 査 方 法 等	
				0	1	2	3	4	5	6	7	8		9
1	刈取り耐性(春)	1観察/区	観察		極弱	より弱	弱	やや弱	中	やや強	強	より強	極強	1～2週間間隔で2～4回刈り取後の再生の程度、密度等による総合的な評価を春(4～5月)に行う
2	刈取り耐性(夏)	1観察/区	観察		極弱	より弱	弱	やや弱	中	やや強	強	より強	極強	1～2週間間隔で2～4回刈り取後の再生の程度、密度等による総合的な評価を夏(7～8月)に行う
3	刈取り耐性(秋)	1観察/区	観察		極弱	より弱	弱	やや弱	中	やや強	強	より強	極強	1～2週間間隔で2～4回刈り取後の再生の程度、密度等による総合的な評価を秋(10～11月)に行う
4	踏圧耐性	1観察/区	観察		極疎	より疎	疎	やや疎	中	やや密	密	より密	極密	無処理区と比較した踏圧条件下の生育を評点する
5	ほふく茎の耐踏圧性	1観察/区	観察		極不良	より不良	不良	やや不良	中	やや良	良	より良	極良	踏圧条件における刈取り間のほふく茎の伸長の差により評点する
6	採種性	1測定/区	測定	g/m <sup>2</sup> (小数第1位を四捨五入)									1番草の各区1m <sup>2</sup> の出穂茎を採取し、精選種子を秤量する	
7	稔実歩合	1測定/区	測定	% (小数第2位を四捨五入)									100穎花当たりの完熟種子数の割合で示す(各区10穂)	
8	生草重 (春季)	1測定/区	測定	kg/a (小数第2位を四捨五入)									春季(～5月)に区の周辺を除く1m <sup>2</sup> を3～5cm高さで収穫した生草重	
9	乾物率 (春季)	1測定/区	測定	% (小数第2位を四捨五入)									春季(～5月)刈取草について生草サンプル200gを70℃、48時間以上、恒量になるまで通風乾燥後算出	
10	生草重 (夏季)	1測定/区	測定	kg/a (小数第2位を四捨五入)									夏季(6～8月)に区の周辺を除く1m <sup>2</sup> を3～5cm高さで収穫した生草重	
11	乾物率 (夏季)	1測定/区	測定	% (小数第2位を四捨五入)									夏季(6～8月)刈取草について、春季と同様にして算出	
12	生草重 (秋季)	1測定/区	測定	kg/a (小数第2位を四捨五入)									秋季(9月～)に区の周辺を除く1m <sup>2</sup> を3～5cm高さで収穫した生草重	
13	乾物率 (秋季)	1測定/区	測定	% (小数第2位を四捨五入)									秋季(9月～)刈取草について、春季と同様にして算出	
14	乾物消化率	1測定/区	測定	% (小数第2位を四捨五入)									酵素法または近赤外分析法による (乾物中%)	